

天文学とプラネタリウム

第86回



今月のお題

被災地での天文イベント



天文分野の専門性を活かしながら、被災地ではどんな活動ができるのか？その可能性のひとつを、ご紹介します。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台ALMA推進室)

東日本大震災の発生からはや 3 ヶ月。突然、日常が一変してしまったあの日から、今も厳しい条件の下での生活を余儀なくされている多くの方々がいらっしゃいますが、一日も早い復興へ協力していければと思います。私たち天ブラでは、震災直後から天文分野という専門性を活かし、どのような社会貢献ができるのか、さまざまな可能性を探ってきました。その結果、このゴールデンウィークに、田老児童館（岩手県宮古市田老地区）とふれあいランド盛岡（岩手県盛岡市）にて、それぞれ活動を行いましたので、その様子を皆さんにもご報告したいと思います。

この訪問が実現したきっかけは、天ブラのメーリングリストへの 1 通のメールでした。被災地での天文イベントの開催の可能性について言及したところ、メールを読んだディスカバリーパーク焼津の弘田澄人さんから、被災地での活動を志す科学ボランティアグループの連携組織「サイエンスキャラバン 311」をご紹介いただきました。このサイエンスキャラバン 311 が窓口となって被災地のボランティアセンター等とコミュニケーションを取った結果、先方から依頼をいただくこととなりました。私たち天ブラのメンバーも、サイエンスキャラバン 311 のグループに加わって一緒に被災地入りすることとな

ったのです。

私たちが最初に訪問したのは田老児童館。津波で大きな被害を受けた宮古市田老地区にある児童館です。下は幼児から上は中学生まで 15 名ほど、地元の子どもを対象に科学実験イベントを行いました。昼間の活動でしたので、私たち天ブラグループでは、Mitaka を使った宇宙探検や、天ブラ謹製のペーパーくらふと天球儀を使ったワークショップを行ってきました。手を動かしながら、楽しくおしゃべりする時間はとても充実していたと思います。活動終了後に、「また来てね」と前庭からずっと手を振って私たちを見送ってくれた子がとても印象的でした。次に訪問したのは、ふれあいランド岩手です。

こちらは内陸部の盛岡市にある、避難所として使われている施設です。およそ 60 名の避難者の方が生活されていました。ここでは、川崎市青少年科学館の甲谷保和氏と協力して、夜の天体観望会を開催しました。参加したのはおよそ 30 名程度。あいにくの天気で、空の半分ほどは雲で覆われていましたが、晴れ間からちらちらと顔を出す土星や春の星たちを楽しんでいただきました。施設の壁面には、プロジェクターを使って Mitaka を大きく映しだし、地球から宇宙の果てまでを案内することもできました。

今回の活動をするにあたっては、私たちのよ



ふれあいランド盛岡での活動の様子。壁面への大写真は、なかなか受けが良かったです！

うな活動が本当に被災地で必要とされるのかという点を心配していました。頭では必要とされると信じていても、実際のところどうなのか。しかし、今回訪問した 2 箇所に関して言えば、それはまったくの杞憂でした。しっかりとした手応えを、私たちは感じる事が出来ました。ふだん以上に慎重な準備は必要ですし、状況も特殊ですが、その点をきちんと把握した上で、どんどん活動をすべきだと感じました。今夏に向けて、同様の活動は増えていくと思いますが、天ブラのこれまでの経験を活かしながら、活動を進めていきたいと思っています。